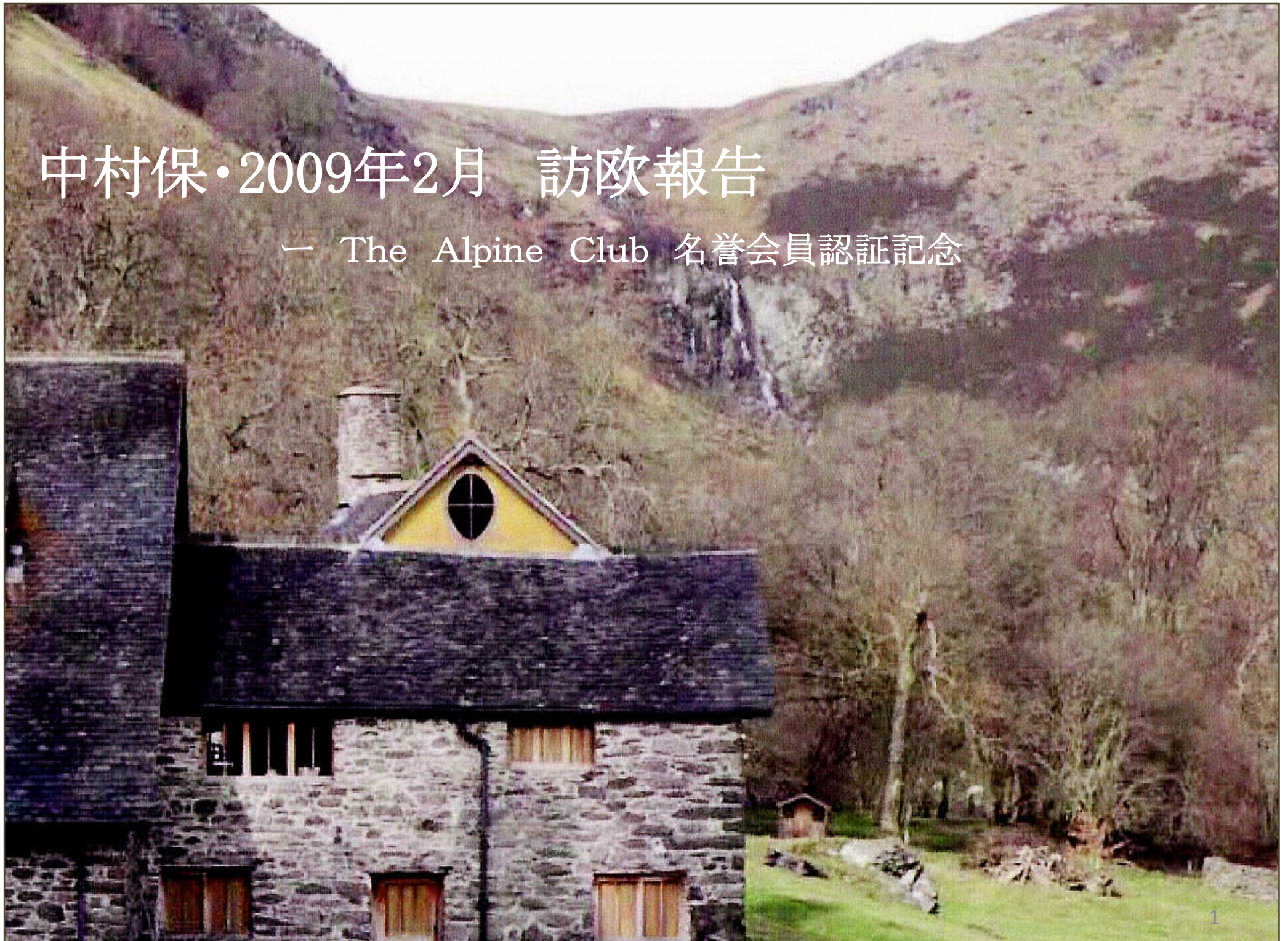


# 中村保・2009年2月 訪欧報告

— The Alpine Club 名誉会員認証記念



3週間のヨーロッパの旅から帰国しました。英国 The Alpine Clubの名誉会員認証と講演が主な目的でしたが、他に4回の講演を行い、多くの著名な登山家と交流できました。段取りを進めてくれたのは私の最も親しい友人、オクスフォード出身の現副会長Martin Scottさん(エベレスト基金の理事長でもある)です。

ヨーロッパ滞在中はすべて友人登山家の家にお世話になり、丁寧なもてなしを受けました。クラブ仲間の付き合いの素晴らしさをあらためて実感しました。なかんずく、Doug Scottさん夫妻が気を遣われてよく面倒をみてくれました。Sir Chris BoningtonさんもDoug Scottさんの家での夕食パーティーにご夫婦で来られました。以下、日程・行事・交遊をエピソードを交えて綴ってみます(2009.3)。

## 2月10日 ロンドン

The Alpine Clubにて新会長Paul Braithwaiteさんから名誉会員(Honorary Membership)の認証書授与のあと、講演「ヒマラヤの東——チベットのアルプスと神秘の河」。Martinさんは自分もビジネスマンであったせいかわ私「キセル登山家」であることをユーモアを交え紹介してくれました。講演の締めはDoug Scottさんが丁寧に話してくれました。80名参加。

カクテル・パーティーのあと会長、Doug Scottさん夫妻、Martinさん夫妻と夕食。拙書ドイツ語版“Die Alpen Tibets”の出版社Pedro Detjenさんもハンブルクから招待されました。当日はAlpine Club Libraryの稀覯本の展示会も催しておりました。George Bandさん、元UIAA(世界山岳連盟)会長のIan McNaught-Davis夫妻(奥さんはチリ人の美人で有名)も顔をだし社交界の場所にもなっています。

Stephen Venableさんの後を継いだ新会長Paulさんは62歳、Doug Scottさんのクライミング・パートナーの一人です。マンチェスターでクライマーを雇用して高層ビルや海洋石油掘削設備などで高所作業を行う会社を営んでいます。Alpine Clubのメンバー数は約1300人で変動はないが高齢化には悩んでいます。平均年齢は50歳代半ばのようです。オクスフォードの落ちこぼれ(Martinさんの言)ながら英国登山界のプリンスVenableさんは2年前に自分のエベレストに至る登山を振り返る“Higher Than the Eagle soars – A Path to Everest”を出版、文筆家としての評価は高いが、山関係だけでは食べていけず、最近は大衆紙「Sun」の依頼でディズニーマーケットに取材にゆき連載を書いている由。



To Tom Nakamura, Greetings.

In recognition of your outstanding contribution to mountaineering and to mountain exploration, we - your fellow members of the Alpine Club - are privileged to elect you to Honorary Membership.

*Paul Braithwaite*

Paul Braithwaite. President

London, December 10<sup>th</sup>. 2008

*Great Things are done  
When Men and Mountains meet*

*William Blake (1757-1827)*



新会長 Mr. Paul Braithwaite



Mr. Doug Scott

Alpine Club 名誉会員認証書

## 2月11日 ロンドン

The Travelers Clubにて講演。このクラブは1819年に創立、王立地理学協会(1830年創立)より古い歴史があります。建物の内部は重厚そのもの、200年前にタイムスリップしたかと思うほどです。階段の手すり一つにも謂れがあります。参加者は50名ほどで、登山家ではありませんので、スライドを組み換え、民俗とカルチャーの間に麗峰を随所に入れて紹介しました。1820年代にインドのカルカッタにBengal ClubとボンベイにYatch Clubがこのクラブにより作られました。古色蒼然としていますが今でも運営されています。植民地経営の尖兵の役割を果たしたのでしょう。

余談ですが、王立地理学協会とAlpine Clubが写真の使用権をめぐり係争になり、3年の裁判の結果、最近ようやく和解に漕ぎつけました。Martinさんの実務的能力の負うところが大きいでしょう。

## 2月13～14日 メルボルン(Nottingham近郊)

13日、ロンドンから北へ列車で2時間、ノッチングムへ。Mick Fowlerさんが出迎えてくれました。アルパインスタイルの旗手、Mickさんの本業は真面目な税務管、年に一回だけ30日の休暇を利用して海外の山の登攀に出かける根っからのクライマーです。スコットランド・ベンネビスの冬の厳しい登攀から戻ったばかりのところでした。フランスの第一回黄金のピッケル賞を受賞した四川省・四姑娘山6250m北壁の胸のすくような初登攀、念青唐古拉山東部の峻峰カジャチョ6447m、マナムチョ6267mの初登頂は私の情報提供がきっかけでした。

Mickさんの家は農家を改築した大きな家、夕食には近くにすむAlpine Club副会長のChris Watt夫妻が来てくれました。Chrisさんは山の道具の輸入販売元を経営しています。23年前にMickさんとペルー・コルディエラブランカのタウリラフに新ルートを開き、最近ではカジャチョと一緒に登っています。目立ちがり屋ではない優れたクライマーです。Mickさんは今年の9月はパタゴニアだが、来年の秋には東南チベットの未踏峰大米勇(Damyan)に挑みます。三方面からの写真を渡しアプローチを説明しました。14日にMickさん夫妻が次の訪問地、北ウェールズに車(3時間のドライブ)で連れて行ってくれました。

## 2月14～16日 北ウェールズ

変わり者の登山家、Julian Freeman-Attwoodさんと奥さんに会うのが楽しみでした。Julianさんはマイペースの登山家です。ヒマラヤ、チベット、南極半島、南ジョージア島、フェゴ島と活動範囲は広範です。南極圏ではヨットで出かけ山に登るという英国人の趣味を実行しています。自前のヨットをアルゼンチンにおいてあります。ティルマンが行方不明になる直近の航海と一緒にヨットで出かけています。現在はヤルン・ツァンポー源流の山と、特にインド・中国国境の未踏峰ツイ・カンリ(インド名:ネギカンサン)に執着していますが、なかなか中国側の登山許可が取れません。

Julianさんに会いたかったのは別の理由がありました。奥さんが大富豪ロスチャイルド家の娘で、広大な土地に居を構えていると聞いていたからです。皆さんJulianは大金持ちだろうと言っていますが、本人には訊けないのでお前(私)が聞いてみてくれと言われました。

Julianさんは10年前に買ったという大牧場(850ヘクタール)を経営しています。広い谷とそれを取りまく尾根筋まで自分の土地で、大きな滝もあります。住処は継ぎ足しの石造りの建物ですが、大きな家です。チベットの大きな家具まであります。小さな水力発電所があり、余った分は電力会社に売っています。乗馬用の馬が3頭、奥さんと娘さんとで格好よく乗りまわしています。ジャンプの練習もしています。奥さんに乗馬を誘われましたが、チベット馬とちがうので辞退しました。

近くに住む英国きっての山岳ジャーナリスト、Lindsay Griffinさんが来てくれました。LindsayさんはAlpine Clubの役員、エベレスト基金の助成案件審査委員長も務め、CLIMB誌 Mountain Infoを担当、American Alpine Journalの編集にも携わっています。彼もオクスフォードの落ちこぼれです。気鋭のクライマーでしたが、10数年前にアルタイ山脈で落石事故にあい、完治せず未だに足が不自由です。Japanese Alpine Newsをたいへん評価してくれています。二人に私の2007、2008の東南チベット・ゴルジュの国と四川の山を「パワーポイント」で紹介しました。



Emmy Freeman – Attwood  
a daughter of Rothchild family

Julian's Farm



## 2月16～18日 湖水地方

16日にJulianさんが車(4時間のドライブ)で湖水地方のDoug Scottさんの家まで運んでくれました。天気は比較的良く、北ウェールズから湖水地方(Lake District)までの景観の移り変わり、落ち着いた田舎の町のただずまいを楽しみました。

Dougさんの家はペンリスの町から車で30分程です。ヘスケットという古い歴史のある村です。周囲は牧場と畑、半野生の馬や鹿がいます。狐狩も行われています。奥さんのTrishさんに案内してもらいました。16日の夜は夕食には近くに住むBonington夫妻、Doug Scott夫妻、Julian、Stephen Goodwinさん(Alpine Journal 編集長)の皆さんが出席しました。

Doug Scottさんは10年ほど前のカラコラム・オーガでの事故の傷がもとで両膝に人工関節を入れていますが、歩行や軽い運動には問題ないようです。DougさんはCommunity Action Nepalという組織を主宰し、ネパールを舞台にボランティア活動を積極的に展開しており、現在は学校、医療など40のプロジェクトを進めています。講演活動に追われており、収益はネパールでの活動につき込んでいます。

この他、今年是一年中断しているフランスの黄金のピッケル賞の審査委員長もしています。登山はコンペティションではないので、オリンピックのように優勝者を決める必要はないと言います。彼の登山哲学を語ってくれました。優れたクライミングをいくつか推奨する方式を取るでしょう。日本隊も平出君のカメット新ルートなどが対象になるでしょう。

17日に湖水地方ペンリスのホテルで講演をしました。120名以上の方が来てくれました。予想以上の入りで収益金はCommunity Action Nepalに寄贈されました。私も心ばかりですが100ポンド寄付しました。英国の登山家はロンドン周辺より湖水地方に多く集まっています。著名なクライマーが来てくれました。

Martinさんは英国の最も傑出したクライマーとして4人名前を挙げました。

① Joe Brown ② Chris Bonington ③ Doug Scott ④ Mick Fowler

Joe Brownは他の3人に比べて出たがり屋でないが英国では最も尊敬される伝説的なクライマーです。彼の家は裕福でなく工員になりました。クライミングが好きでもロープを買う金がないので、洗濯物を干す紐をロープ代わりに使いました。1955年のカンチェンジュンガ隊のメンバーとして初登頂しますが、その時初めてノン・エリートJoe Brownさんがメンバーとして選ばれたと言われています。Alpine Clubは彼を名誉会員にしています。ちなみに現在存命のAlpine Club名誉会員は私を入れて28名です。今回の旅ではJoe Brownには会えませんでした。3年前のシンポジウムで席を共にしました。以後、クリスマスカードなどには必ず返事をよこす律儀な人です。



## 2月18～20日 ケンブリッジ

18日にペンリスから特急列車(3時間)でロンドンに戻り、ロンドンからケンブリッジ・エクスプレス(45分)に乗りました。ケンブリッジではいつものようにHenry Dayさんが迎えてくれました。Henryさんはケンブリッジ出身の退役大佐です。英国陸軍登山隊で何度も遠征、1970年にはアンナプルナ I 峰の第二登を行っています。来年はアンナプルナ I 峰初登頂60周年、第二登40周年を記念して王立地理学協会でシンポジウムが行われます。90歳を超えるMaurice Herzog、南壁を初登攀したBoningtonさんも参加するそうです。

19日の夜、ケンブリッジ大学で講演をしました。HenryさんはGeorge Bandさんとともにケンブリッジ大学山岳部OBの重鎮です。今回の講演もHenryさんが準備しました。出席者は学生、若者を中心に約50名でしたが、質問は活発でした。ケンブリッジ大学山岳部の現在のアクティブ・メンバーは30名ぐらいです。ケンブリッジのカレッジ・教会の古い町並みはいつ行ってもいいところだと感じます。Henryさんは奥さんともども旅行好きです。2年前に愛車ランドローバーを駆って南北アメリカを縦断していますし、今年はロシアから天山に愛車で入る計画です。

## 2月20～22日 ダブリン (アイルランド)

22日ロンドンからダブリンに飛びました。数年前に米国アリゾナのフラグスタッフで開かれたUIAA年次総会で親しくなったダブリン在住のJoss Lynamさん(当時UIAAのExpedition CommitteeのPresident)の依頼です。Jossさんはすでに84歳でお年寄りになっていました。2月21日夜、ホテルのいい部屋に70名ほどが参加してくれました。講演の主事は1969年創立のMountaineering Council of Ireland (MCI)です。アイルランドには山岳クラブとしてはJossさんも創立に係わったIrish Mountaineering Club(1949年創立)があり現在250名ほどの会員がいます。ダブリン住宅街の瀟洒な家で老夫婦と静かな時を過ごしました。

## 2月22～25日 ハンブルク(ドイツ)

ロンドン経由ハンブルクに入りました。拙書ドイツ語版“Die AlpenTibets”の出版社Pedro Detjenさん、及び四川省のPartの共同執筆者Michaelさんと英語版の打合せをしました。3分冊とし範囲も四川・青海省までカバーします。松本征夫先生の揚子江源流の山塊も含めます。第1巻目は「念青唐古拉山東部と崗日 = 布」で来春出版を予定しています。その後、引き続き半年ごとに出します。題名も“Alps of Tibet and Beyond”を考えています。

Pedroさんの家では盛大な天麩羅パーティーをしました。日本から天麩羅粉、つゆなど持参しました。新鮮な海老、ホタテなどは豊富です。目の前で揚げて食べてもらうやり方でいたく喜ばれました。

## 2月25日～3月1日 チューリッヒ(スイス)

25日にチューリッヒに移動しました。ヒマラヤン・ジャーナルと雲南省のガイド陳小紅さんがチューリッヒ在住のChristian Freyと私を結びつけた媒体です。山の世界も「A world is small」です。ヒマラヤン・ジャーナルに載った私の梅里雪山巡礼路一周(1996年)の寄稿を読んだFreyさんが2000年に同じガイド陳さんを使って巡礼路を辿りました。四川省のミニヤ・コンカと貢 = 雪山のトレックにも陳さんと出かけています。Freyさんはスイスの大手投資銀行UBSのアナリストで、山岳ガイド組合のメンバーでもあります。奥さんは漢族ですがウルムチ出身で新疆山岳協会で働いていました。お二人の好意に甘えてスイスでの休日を楽しみました。



Julia Scott  
Martin's wife

George Band

Martin Scott



# 中村保氏受賞歴

- 2003年 第6回秩父宮記念山岳賞
- ヒマラヤンクラブ 名誉会員
- 2006年 アメリカ山岳会 名誉会員
- 2008年 英国山岳会(アルパインクラブ)名誉会員
- 国際山岳連盟 表彰
- (英国)王立地理学会バスク・メダル賞
- 日本山岳会 名誉会員、会長特別
- 表彰